

新専門医制度 内科領域 モデルプログラム

当プログラムの特筆点を分かりやすく抜粋しました。詳細・お問い合わせはページ下部にある QR コードからご覧いただけます。

希望に応じてフレキシブルに対応出来る内科プログラム

豊富な症例数と
科の垣根を超えた
充実した指導環境

当科には内科標準コース、Subspecialty 重点コースの2コースがあります。内科標準コースでは連携施設での研修を何年目に行うのかをプログラムの任意に設定出来ます。一方の Subspecialty 重点コースでは Subspecialty に比重を置く期間をフレキシブルに対応できます。また 2017 年に腎臓病センターが設立され腎臓移植も診られる内科医の育成も日々行われています。

Subspecialty 重点2年コース

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考
専攻医 1年目	Subspecialty 選択科						他内科 1		他内科 2		他内科 3		【目標】 症患者 20以上 症例数 60以上
							Subspecialty 選択科						
	1年目にJMECCを受講（プログラム要）												
専攻医 2年目	他内科 4		他内科 5		他内科 6		他内科 7		他内科 8		他内科 9		【目標】 症患者 45以上 症例数 120以上
							連携施設						
										病歴提出準備			
専攻医 3年目	連携施設 (Subspecialty 重点期間はプログラム内で最長2年)												【修了要件】 症患者 56以上 症例数 160以上 病歴要約 29
	初診＋再診外来を週に1回担当（プログラム要件）												
その他要件	安全管理セミナー・感染セミナーの年2回の受講・CPCの受講												

※ Subspecialty 重点コースでは、Subspecialty に比重を置く期間を2年間設定する。この Subspecialty の設定時期及び連携施設での研修時期を何年目にするかはプログラムの任意とする。(最終的に修了要件を満たすことが重要です)

現役専攻医・後期研修医の声

同期の人数が丁度良く、症例の取り扱いなどは起こりません。「競争」というより「切磋琢磨」しています。いろいろな手技や経験を積むには最適です。それから残業代もちゃんと払ってもらえますし(笑)、働きやすいです。

消化器内科
専攻医 田所 健一 先生

当科は腎臓外科と一緒に移植を中心とした治療を行っており、やる気次第では外科の手技にも積極的に参加できるところが魅力です。また妊娠・出産などにおいて女性が働きやすいような環境作りに積極的なものとてもありがたいです。

腎臓内科
後期研修医 小島 亜希 先生



プログラム責任者
腎臓内科
血液浄化療法室 科長
尾田 高志

腎臓病センター
ホームページ

hachioji-kidney.jp



※ 上記 QR コードは内科専門医プログラム責任科のホームページに飛びますが、内科領域内の各診療科の選択は可能です。



◀ 見学・お問い合わせはこちらから

メール: h-senmon@tokyo-med.ac.jp

電話: 042-665-5611 (代表)

内科専攻医・先輩医師の現場の声を発信!
内科専攻医募集ホームページ

h-internal-medicine.com

